F－36 家庭経営の変動に関する生活史的研究 Ⅱ 生活実態調査 ― 福島県の農・山・漁地区を例として ―

2、生活の変容 ハ）食生活

郡山女大家政 ○足利千枝 他8名

目的 各地域の食生活は その地域の食物の生産量と生活様式によりその形態が規定されてきている。福島県の三地域の食生活の変遷を比較検討し、共通点および相違点につき、その要因を家庭経営の変動との関連において考察する。

方法 主たる調査時期および対象・方法はⅡ生活実態調査ハ.家庭経営の変容3)と同様であるが、1972年より2年間随時福島県主湖南高校生徒家庭へのアンケート調査および各地区古老や商店主からの聴きとり調査、各関係役所の資料調査等も行った。

結果 農山村・漁村における食生活は その土地の自生物・牧産物・漁獲物等に影響され、その土地特有の食事形態を生み出している。古くは各家庭の意識よりも部落の集団として規制され、食品の選択・調理法が工夫されてきた。三地域夫々特徴があり、たんぱく源として摂取していた食品は 昔は相馬の漁村地域では生魚類が王座を占め、湖南・田島の農山村地域では専ら塩干魚・大豆製品が主であり、塩干魚以外は殆んど自給によっていた。現在では三地域とも購入食品が増加し、調理ではサラダ、カレーライスが多く取り入れられ食事の洋風化傾向は同一である。調理用具・調理手法・食事形式についても詳しくその変遷を調べたが、食生活は内的要因よりも社会的外的要因により大きく変化し、各地域共均一化されつゝあり、昔は栄養補給に大いに役立っていたと思われる行事食も行われなくなって来ている。低流には長い間の保守性が未だ残っており、各地域の特殊な食形態が生産物との関係もあってそのまゝのものもあるが、主婦の意識の向上と経済的余裕により、大きく変容してきている。